

令和2年度 事業経営評価

団体名	(株) 大阪港トランスポートシステム	所管所属名	大阪港湾局
-----	--------------------	-------	-------

中期目標	中期目標期間
	令和2年9月1日から令和7年3月31日

財務運営の実績に関する評価(財務運営に関する事項)

年度計画達成状況	指標Ⅰ	売上高経常利益率				
	目標値Ⅰ	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標	R6目標（最終目標）
		38%以上の確保	－	－	－	－
	実績値	H30実績		R1実績	R2実績	目標達成率
		30.8%		33.5%	40.0%	105.3%
	中期計画に対する進捗状況		ア イ:「順調」 イ:「遅れあり」 ウ:「計画の見直し必要」	※R3以降は、指標を「年度末流動資産額（現預金及び有価証券額）」及び「北港テクノポート線に係る建設費用」に変更		
	指標Ⅱ	トラックターミナル事業における施設稼働率				
	目標値Ⅱ	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標	R6目標（最終目標）
		94%以上の確保	95%以上の確保	95%以上の確保	95%以上の確保	95%以上の確保
	実績値	H30実績		R1実績	R2実績	目標達成率
		97.6%		98.4%	94.0%	100.0%
	中期計画に対する進捗状況		ア イ:「順調」 イ:「遅れあり」 ウ:「計画の見直し必要」			

外郭団体の自己評価	当該事業年度の達成状況について
	年度計画指標Ⅰ 売上高経常利益率について、収益は施設売却や退去等により減少したが、施設売却による土地賃借料や修繕費等の費用減少により目標を達成した。また、指標Ⅱ 施設稼働率については、想定していた退去を含め、概ね目標どおりの稼働率を維持出来たことにより目標を達成した。当社としては、指標Ⅰ、Ⅱともに目標を達成することができており、安定した経営基盤が確立できていると考えている。
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について 今後想定される大規模な投資や、本格化する鉄道事業の推進に向け、中核事業である不動産事業においては、効果的な営業活動等による収益の確保、コストを意識した経営努力により、安定的な収益を確保していく。また、令和3年度から6年度を対象とした中期計画において設定する、中期目標を達成するためのスケジュール及び資金指標等に基づき、安定的かつ継続的な事業活動を行うことができる財政基盤を確保していく。

専門家の評価	公認会計士、税理士その他の財務に関する専門的な知識及び経験を有する者の意見
	令和2年度において設定している指標は、令和2年度予算を踏まえ妥当であり、実績値においても団体の自己評価のとおり2項目ともに達成しており、高く評価出来る。なお、売上高経常利益率は、今後予定される大規模な投資により年度毎で大きく上下するため、次年度以降は別の項目を指標とする必要があると考える。なお、施設稼働率は継続的な指標として問題無いと考えるが、令和3年度より数年をかけて改修する施設における稼働率の取扱いについて留意する必要がある。

市の審査	指標の達成状況	審査結果
	a b: c:	指標Ⅰについては、施設利用者の退去等により収益が減少したものの、修繕費等のコストを抑え、確実に利益が確保できるよう取り組んでおり、目標を達成できていた。指標Ⅱについては、大口テナントの退去があったものの、既存利用者との交渉等効果的な営業努力を展開し、目標の達成に繋げていたことから、団体の自己評価は妥当であると考えている。

当該事業年度の評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた本市の総合的な評価
	団体においては、年度計画における目標をいずれも達成する等、安定的で健全な財務運営が行えている。今後は、老朽化している施設の更新による大規模な投資、さらには本格化する鉄道事業の推進を控えているが、目標達成に向けた取り組みを継続することにより本市中期目標期間においても堅実な団体経営が行えるものと考えている。引き続き、安定的な財務基盤の確保に向け取り組んでいてもらいたい。
	助言等及び講ずるよう求めた措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）